

第3回教育文化センター利活用検討ワークショップ

第3回は、第1回、第2回のワークショップで得られた意見を基にコンセプト案を3案作成し、その中から1つを選ぶのではなく、3つの案の価値観から特に大切にしたい価値観を選び、参加者全体にとって最もよいと考えられる1つのコンセプト案にまとめることを目的としました。

ワークショップを通して考えていただいたコンセプト案をベースとし、今後の建物についての計画を進めるとともに、一連のワークショップの流れや最終的なコンセプトを市民のみなさんに伝えるコンセプトブックを年度内に作成する予定としています。

日 時 : 令和8年9月19日(土)10:00~12:00

会 場 : 教育文化センター4Fホール

参加者 : 公募12名(内 高校生 3名、子育て世代 1名、地区代表 4名)
施設関係職員10名

運 営 : 氷見市教育委員会事務局文化振興課
株式会社アール・エ北陸

第3回ワークショップの流れ

1. 3つのコンセプト案それぞれの価値観を確認



2. グループワーク① コンセプト案ごとのメリット・デメリットを抽出



3. 最も自分の思いに近いコンセプト案について参加者一人ひとりが投票



4. グループワーク② 投票で選ばれたコンセプト案をもとにアイデア出し・調整



5. 各グループによるアイデア発表

〈第3回ワークショップ並びに本ワークショップ全体の目標〉

3つのコンセプト案から1つを選ぶだけでなく、
3つの案の価値観から特に大切にしたい価値観を選び、
参加者全体にとって最もよいと考えられる1つのコンセプト案への収束

1. ワークショップに先立ち検討したコンセプト案

第1回、第2回のワークショップで得られた意見を基に 仮のコンセプト案を3案作成 〈参加者へ事前送付〉

A案: 図書館を中心に多世代が学び、日常的に利用できる施設

1階をワンフロア図書館とし、図書館を施設の日常利用の中心として位置付ける案。カフェや児童スペースを併設しながら、静かな読書・学習空間との住み分けを図る。4階は自習、コワーキング、レンタル、カルチャースクール、ギャラリーなど、市民の学びと活動のための空間として活用する。

B案: 交流やにぎわい創出の拠点・人々が自然と集まる施設

1階に博物館と交流スペースを配置し、文化に触れながら人が自然と集まる施設を目指す案。2階を図書館、4階を市民活動、コワーキング、展望カフェ、キッズスペース、交流スペース等として活用し、施設内での交流や滞在を促す。

C案: 地域文化や歴史を活かし、氷見の魅力を発信する拠点

1階に博物館、ミュージアムショップ、ミュージアムカフェ等を配置し、氷見の文化・歴史・地域資源を主に地域外へ向けて発信することを主体に据えた案。4階にはカルチャースクール、ギャラリー、キッズスペース、多世代交流スペース等を配置し、市民による文化活動と発信を促す。

2. GW①で得られた意見〈A案〉

※GW=グループワーク 以下同

A案:図書館を中心に多世代が学び、日常的に利用できる施設

1階をワンフロア図書館とし、図書館を施設の日常利用の中心として位置付ける案

いいと思うところ

- 利用者の多い図書館が1階に配置されており
利便性が高い
- 図書館とカフェが併設されることで**立ち寄りたくなる施設**となる
- 図書館の閲覧スペースがまとまっており**利用しやすい構成**
- 1階の交流空間と4階の静かな学習空間を分け、**目的に応じて使い分けやすい構成**
- 図書館が1階にあることで**屋外とのつながりや開放感のある空間を創出できる可能性**
- 屋外のスペースでキッチンカーやマルシェを開催できれば**図書館を中心としたにぎわいの創出**につながる可能性
- **カルチャースクール**など、市民の学びや活動を支える機能

心配なこと・気になるところ

- 博物館を2階に配置することで、**来館者が少なくなる可能性**
- 博物館展示に必要な**天井高さの確保**
- 図書館の児童書コーナーと一般の図書閲覧スペースが同フロアにあることに対する**音環境への配慮**
- **書庫・収蔵庫の配置場所**の確保
- カフェと図書館の近接による**図書資料への影響**
- テラスからの日射による**図書資料への影響**
- 集中して学習できる**独立した学習スペースの確保**
- **芸術文化館等との役割分担**の整理が必要
- **4階スペースの可変性**が低い
- 4階を**避難所**として利用できるか不安
- **会議室**として利用できるスペースがほしい

2. GW①で得られた意見〈B案〉

B案: 交流やにぎわい創出の拠点・人々が自然と集まる施設

1階に博物館と交流スペースを配置し、文化に触れながら人が自然と集まる施設を目指す案

いいと思うところ

- 博物館を1階に配置することで人目に触れやすく存在を認知されやすい
- 1階は天井高さを活かした展示が可能であるため博物館は1階が適している
- 博物館は1階が適切。図書館は目的がある人が行く所であり、2階でも問題ない
- 人目に触れやすい、訪問しやすい1階フロアを使い氷見の文化や魅力を発信できる
- 4階は眺望に優れるため、展望カフェは魅力的
- キッズスペースを併設するなど、子育て世代も利用しやすい多世代交流が促進されそうな4階の交流スペース

心配なこと・気になるところ

- 博物館を1階に配置すると、屋外とのつながりのある建物にしづらいのではないか
- 4階の展望カフェをわざわざ利用する人がいるか
- 4階のキッズスペースやコワーキングスペースの管理・防犯体制
- 利用者の多い図書館を1階に配置した方がよいのではないか
- カフェと図書館は一体とし、1階に配置したい
- 芸術文化館にもコワーキングスペース(フリースペース)があるため、住み分けができるか
- 1階と4階に分散した交流スペースの役割分担
- 書庫、収蔵庫、多目的スペース等の既存機能の確保
- ミュージアムショップの防犯対策

2. GW①で得られた意見〈C案〉

C案:地域文化や歴史を活かし、氷見の魅力を発信する拠点

氷見の文化・歴史・地域資源を主に地域外へ向けて発信することを主体に据えた案

いいと思うところ

- 立ち寄りやすい**1階に氷見の魅力を発信するための空間**を配置してある点
- 博物館を1階に配置することで、**氷見の文化や歴史などに来館者が触れやすい**
- 博物館とカフェが一体的に組み合わせることで**立ち寄りやすい空間**となる期待
- ミュージアムショップでのお土産販売による**氷見の魅力発信**
- ギャラリーやカルチャースクールなど、**市民の文化活動を支える機能**を備えている
- ワークショップ等で制作した作品を展示できる、**市民参加につながる仕組みづくり**への期待
- キッズスペースを併設するなど、**子育て世代も利用しやすく多世代交流が促進されそうな4階の交流スペース**

心配なこと・気になるところ

- 博物館を1階に配置すると、**屋外とのつながりのある建物にしづらい**のではないかと
- **図書館**を2階に配置することによる**アクセス性**
- カフェと博物館の近接による**展示資料への影響**
- エレベーター等、上下階への移動のしやすさ
- 4階の**ギャラリーをわざわざ訪れる人がいるか**
- **自習スペース**の不足
- **多目的に利用できるスペース**の不足
- **書庫・収蔵庫の配置場所の確保**
- **ミュージアムカフェの運営方法**(入場料の取扱い等)
- ミュージアムショップの**防犯対策**
- 総合案内やエントランスの分かりやすさ

2. GW①で得られた意見〈各案に共通のもの〉

【利便性・バリアフリー】

- ・Wi-Fi、電源設備の整備
- ・授乳室、おむつ替えスペースの確保
- ・オストメイト対応、ユニバーサルトイレ等の整備
- ・エレベーター等、上下階への移動のしやすさ

【駐車場・屋外空間】

- ・芝生広場やテラス等を活用した屋外空間
- ・キッチンカーやマルシェ等によるにぎわい創出
- ・屋外空間の整備と駐車スペース確保との両立

【4階の管理・安全性】

- ・学習・交流・キッズスペース等として利用する場合の管理体制
- ・子どもや学生が安心して利用できる防犯・安全面への配慮
- ・必要に応じた職員配置等の検討

【既存機能の確保】

- ・書庫、収蔵庫等の必要機能の確保
- ・多目的スペースや投票所等、現在担っている機能の継続
- ・既存施設との役割分担や機能の住み分け

3. 最も自分の思いに近いコンセプト案への投票

1回目のGWで出た意見を踏まえ、参加者20名で投票を実施
1票／1名で**自分の思いに最も近いコンセプト案**を選択



A案:図書館を中心に多世代が学び、日常的に利用できる施設

B案:交流やにぎわい創出の拠点・人々が自然と集まる施設

C案:地域文化や歴史を活かし、氷見の魅力を発信する拠点

最多得票となったC案をベースとすることに決定(次点:A案)



C案をベースにしながら、
「心配な点をどう改善するか」
「A案、B案のいいところを取り入れられないか」
という観点から、各班で2回目のGWを実施

4/5. GW② ベースとなる案を基にアイデア出し・調整

共通点を見出せる項目を同じ文字色としています

- A班**
- 1階カフェと交流スペースを併設
 - 図書館内、4階への学習スペースの確保
 - 4Fの展望カフェは捨てがたい

- 防災用品を保管できるスペース
- 授乳室・オストメイト・ユニバーサルトイレの整備

- B班**
- A案のような静かに自習できるスペースの十分な確保
 - ギャラリーの利用に限定しない柔軟な活用

- 図書館休館日にも利用できる学習環境
- 分かりやすい総合受付・エントランス

- C班**
- 1階をカフェ、ショップ、交流スペースとして屋外と連携
 - 2階を図書館・キッズスペースとして活用
 - 4階を学習・コワーキング・カルチャースクール等に活用

- 4階の可動間仕切り・パーティションによる多目的利用
- (上記に付随し)避難所としての活用
- ソフト面の充実

- D班**
- 1階にギャラリー、コミュニティ兼用の可変スペース
 - (上記に付随し)可動式展示による地域活動、選挙等への対応

- 交流スペースを1階に集約し、4階にカフェを
- 1階ミュージアムショップ等の配置
- 入口を駐車場に近い所に設けるなど、再検討

- E班**
- 1階に無料で利用できるギャラリー
 - (上記に付随し)児童作品、市民活動、ワークショップ成果等の展示を行い、施設自体への集客につなげる

- 100歳体操等に利用できるスペース
- 授乳・おむつ替えスペースの整備

クロージング①

各班の意見発表後、WS終了予定時間までの10分程度の間に自由に意見を求めた

〈カフェに対する具体的イメージ〉

博物館/図書館にカフェを併設する場合:

観光客等の利用も見越してスターバックスやドトールのようなサードプレイス的な立ち位置の店舗

4階フリースペース等、市民が主に利用する想定の場合:

自販機やディスペンサーなどによる飲料の提供で、無料もしくは安価で過ごせるスペースを想定などの意見が出た。

〈博物館のあり方について〉

- 氷見の文化や歴史を知るための入口的な立ち位置
⇒ 漁業や古墳など、来館者の興味に合わせて専門性の高い博物館への誘導も行う
- 博物館の展示は充実しており、内容への評価は一定のレベルであるが、来館者は多くはない
- より目に入りやすく魅力的な博物館としながら、目玉となるような展示やPR方法で来館者を増やしたい
- 図書館と併設されているメリットを活かし、博物館と図書館を部分的に融合させるような作りにすることで、相互に相乗効果を得られるのではないか

〈参加者へ提示した今後の流れ〉

ワークショップを通して皆様に考えていただいたコンセプト案をもとに
実際の建物について計画

一連のワークショップの流れや最終的なコンセプトを市民のみなさんに伝える
コンセプトブックの年度内の制作

これらの内容を伝え、ワークショップにおける全プログラムを完了した